

令和6年度 あげお子ども大学

1. 実施体制

あげお子ども大学	学長	西倉 剛（上尾市教育委員会教育長）
	副学長	---
上尾市生涯学習課	実行委員長	---
	実行委員 （関係団体）	---
	問合せ先	---

2. 事業内容

開催回数	3回	開催期間	令和7年3月1日～令和7年3月15日			
参加者数	17名	内訳	小学4年生	0名		
			小学5年生	10名		
			小学6年生	7名		

3. 実施内容

1 日目	開催日時	3月1日（土）	縄文のタイムカプセル「デーノタメ遺跡」
		14：00～16：00	
ふるさと学	会場	上尾公民館	
	講義名	「縄文のタイムカプセル 北本「デーノタメ遺跡」を知ろう」	
	講師	北本市文化財保護課 坂田 敏行	
2 日目	開催日時	3月8日（土）	お料理・狩猟の大革命
		14：00～16：00	
生き方学	会場	上尾公民館	
	講義名	縄文時代の暮らし	
	講師	公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 資料活用部長 山本 靖	

3. 実施内容

3 日目	開催日時	3月15日（土）	
		14：00～16：30	
は て な 学	会場	上尾公民館	
	講義名	縄文土器から分かること	
	講師	桶川市歴史民俗資料館 飯塚 真人	
			縄文土器が自己紹介するとしたら・・・

4. 参加者の声

参加した子供の声（感想）	・縄文時代での暮らしやデーノタメ遺跡を学び、縄文時代から行われていることや、縄文時代では、今は行われていないことを人の手で行っていることを知り、とても参考になった。 ・縄文時代の人々の生活について、新しいことを土器や発掘調査の結果とともに知れて、とてもためになった。 ・この授業で土器が区別できたのが少うれしい。デーノタメ遺跡に行ってみたくなった。 ・昔からしっかりバランスのとれた食事をしていたことにびっくりしました。どんぐりクッキーというものがあって、少し食べて見たくなりました。 ・縄文時代の人、おしゃれをしていたことが分かった。おいのり専用のももあったから、当時の人にとって、おいのりは本当に大切だったんだと思った。 ・縄文時代の人、土器を作っただけでなく、さまざまな発想から発明をしているということを初めて知りました。 ・昔の人たち（縄文時代）は色々な知恵と工夫で、生活していることと、今にもつながっていることについても、詳しくわかりました。楽しかったです。ありがとうございました。 ・昔から「リサイクル」をしていて、物を大切にしていたことにびっくりしました。 ・実際に縄文土器を絵で描いてみると「こんなところにも線あったんだ」とか、「こういう形の模様もあるんだ」などということが知れて楽しかったし面白かった。
保護者の声（感想）	・子供はとても楽しそうでした 向こうで友達もできたようで、それも良かったです。 ・5年生の時からこども大学に参加させていただき、興味を持って取り組んでいました。講義資料から、子どもには難しすぎるのではないかと考えていたのですが、本人は学校で習わない分野を深掘りして学べるので、どの講義も楽しかったようです。 ・終わってしまうのを寂しがっていたほど、全3回とも楽しく受けられたようでした。講義はもちろんですが、同じことに興味のある仲間とグループワーク等で交流を図れたことも楽しく受けられた要因のようでした。講義の内容を帰宅後自ら話すことはあまりなかったため、学習レポートや資料を見て、どんな内容だったのか触れられたので良かったです。 ・いただいた資料は見やすく、講座に関する本の紹介も良かったです。家でも興味が持てるように振り返りが出来るといいなと思いました。 ・娘は、今回の講座をとても楽しんで通えたようです。